



ジャン・ティンゲリー 地獄の首都 No.1 1984年

叙情 闘争

そしてあるいは

堤清二ノ辻井喬 オマージュ展 最終章



パウル・クレイ 北極の露 1920年



楯の会制服(冬服) 1968年頃
一宮市博物館蔵「日・墨コレクション」



イヴ・クライン 海綿レリーフ (RE50) 1958年



ルーチョ・フォンタナ 空間概念 1962年

2019年9月7日[土] - 11月25日[月]

主催 一般財団法人セゾン現代美術館

開館時間 = 10:00~18:00

(11月は17:00まで)

入館は閉館30分前まで

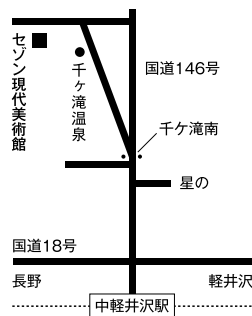
休館日 = 木曜日

入館料 = 一般1500円 (1400円)

大高生1000円 (900円)

中小生500円 (400円)

()内は団体20名以上の料金



堤清二(1927-2013)は、西武百貨店、西友ストア、パルコ、ファミリーマート、西武クレジット、無印良品、吉野家等多くの企業を時代の生活産業として育てた同時代の革命的経営者として知られている。

また同時に詩人・小説家辻井喬として、室生犀星詩人賞を受賞した『異邦人』にはじまり、『群青、わが黙示』(高見順賞)、長編詩『わたつみ三部作』(藤村記念歴程賞)、小説『いつもと同じ春』(平林たい子文学賞)、『虹の岬』(谷崎潤一郎賞)、『沈める城』(親鸞賞)、『父の肖像』(野間文芸賞)他多くの賞を受けている。

経営者として詩人・小説家という領域を超えて、1981年に軽井沢に開館したセゾン現代美術館は、まさに堤清二と辻井喬の合作というべきものである。「時代精神の根據地」という開館宣言は、堤清二と辻井喬の思想と感性として広く知られるところである。本展は、来る11月25日に七回忌を迎える堤清二ノ辻井喬が愛した収蔵作品、数多くの著書、自筆原稿、愛用品、さらに交流のあった芸術家たちの作品と貴重な資料によって氏の創造した世界を展望するものである。

表面右上より時計回りに

ジャスパー・ジョーンズ 標的 1974年 / 中西夏之 山頂の石蹴り No.4 1970年

マーク・ロスコ No.7 1960年 / ビエール・スラー・ジュ 絵画、1983年1月7日 1983年

ワシリー・カンディンスキー 軟らかな中に硬く 1927年 / 宇佐美圭司 旅・After Hiroshima 2005年

セゾン現代美術館

SEZON MUSEUM OF MODERN ART

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町長倉芹ヶ沢2140 PHONE:0267-46-2020